

沖積層ボーリングデータベースを用いた3次元モデルの構築とその活用

Three dimensional model of incised-valley fills using borehole database and its application

石原 与四郎 [1]; 江藤 稚佳子 [2]; 田辺 晋 [3]; 木村 克己 [4]

Yoshiro Ishihara[1]; Chikako Eto[2]; Susumu Tanabe[3]; Katsumi Kimura[4]

[1] 福岡大・理; [2] 朝日航洋; [3] 産総研・地質情報; [4] 産総研・地質情報

[1] Fukuoka Univ.; [2] AAC; [3] GSJ, AIST; [4] GSJ,AIST

地盤調査のために数多く行われている、沖積層を対象とするボーリングは、データベース化され、各地域の沖積層の形成過程や地盤の特性を明らかにするのに用いられている。これらのボーリングデータベースには、各々のボーリングの位置座標とともに、岩相やN値がや深度ごとに数値情報として管理され、利用されている。一方で、これらのデータベースを用いて、沖積層の3次元的地質モデルを構築する研究も成されてきている。3次元的地質モデルは、従来行われていたように、ボーリングデータベース中の各ボーリング柱状図を解釈し、それらの境界を対比してゆく方法や、数値情報を統計的に処理し、等間隔のグリッドモデルを構築する方法がある。本研究では、Eto et al.(2007)、江藤ほか(印刷中)で用いられた手法を解説するとともに、その地質学的な解釈や活用の例を紹介する。